

令和7年度学校評価：昨年度比5%以上の変動項目

	児童 質問	A+B (%)	保護者 質問	A+B (%)	項目	考 察	今後の取り組み
確かな学力	(1)	77.8	(23)	67.1	学校での読書	朝の本の貸し出しや図書室の本を学級文庫として学級に置いている。多様な活動に取り組んでいるが、高学年の図書室利用が低い。	図書室の本を学級文庫として貸し出すことを継続する。移動図書や図書館司書による読み聞かせなど、図書に親しむ機会を計画していく。
	(2)	50.7	(10)	15.7	家庭での読書	児童の評価では週に本を1冊以上読んだ数値である。学校の読書推進活動への理解があるものの、我が子への評価は低い。	「家庭読書(家読)」の取り組みを継続し、保護者が一緒に読書に取り組む家庭を増やしていく。朝スピーチで本の紹介をするなどの活動も意図的に取り入れる。
	(5)	86.2			授業で自分の考えを伝える	昨年度より5.1%下降したが、数値としては約9割近くの児童が肯定している。タブレットによる発表の機会が日常的になってきている。	タブレットを日常的に活用することで、特別な学習ではなく、発表等の選択肢の一つとしてとらえていく。手書きの新聞作成など発達段階を捉え、多様な表現活動を取り入れる。
	(9)	86.2	(7)	85.4	授業がよく分かる	個別の支援を必要とする児童が多い学年において数値がやや低い傾向が確認された。学習内容の理解度や進度への適応に個人差があることが影響していると考えられる。	個に応じた指導の一層の充実を図り、児童一人一人の理解度に応じた授業改善を進める。また、学習状況を丁寧に把握するとともに保護者との連携を強化する。
	(12)	66.3	(9)	33.7	ラインズや自主ノートなどでの進んで学習	昨年度の59%から大きく上昇した。タブレットの持ち帰りやオンラインドリルの活用が学習意欲の向上につながっていると考えられる。	オンラインドリルやタブレットの効果的な活用方法について指導を充実させる。併せて家庭と連携しながら、児童が主体的に学べる環境づくりを推進していく。
豊かな心	(16)	95.7	(14)	96.6	友達を大切に友達に優しく	昨年度の89.7%から上昇した。毎月のポジティブ教育を通して、自分や友達のよさに目を向ける取組を継続してきた成果と考えられる。また、ソーシャルスキルの指導を取り入れたことで、相手を大切に行動しようとする態度の育成にもつながっている。	今後もポジティブ教育とソーシャルスキルの指導を継続し、互いのよさを認め合う風土づくりを一層推進する。あわせて、日常の具体的な場面で実践を振り返る機会を設け、相手を思いやる行動の定着を図っていく。
	(19)	93.5	(6)	94.4	学校は楽しい	児童、保護者とも肯定的に回答した割合が上昇した。「魅力ある学校づくり」やポジティブ教育の取組を通して、安心感や自己肯定感を高める環境づくりを進めてきた成果であると考えられる。	引き続き、「魅力ある学校づくり」「ポジティブ教育」に取り組む。異学年交流を計画的に取り入れていく。学校行事だけでなく、授業の中で楽しさを味わえるような場面をつくっていく。
	(20)	96.4			みんなで何かするのは楽しい	昨年度より約6%上昇し、96.4%と高い水準を維持している。学級活動や行事等で協働する場面を意図的に設定してきたことにより、友達と関わりながら取り組む楽しさや一体感を実感できている成果と考えられる。	今後も、互いのよさを生かしながら協力する活動を計画的に位置付ける。みんなでやり遂げる達成感や充実感を味わえる機会をさらに充実していく。
			(15)	86.5	家庭で学校のことについて話をする	昨年度から約7%減少しており、特に高学年になるにつれて数値が低い傾向が見られる。成長に伴う生活の変化や会話内容の多様化により、家庭で学校の話共有する機会が減少していることが要因と考えられる。	学校での出来事や学習内容を家庭に伝える工夫を行い、会話のきっかけを意図的に設けていく。
	(21)	87.0	(16)	77.5	自分のよいところ	児童の数値も増えているが、保護者の数値は17%以上も上昇した。	今後も、我が子のよさを家庭内で共有できるような機会を教育活動の延長として設けられるとよい。
健康な体			(13)	78.7	すすんで体を動かす	昨年度比で7%上昇しており、体力向上の取組や運動の楽しさを伝える指導の成果が表れていると考えられる。	引き続き運動の習慣化を図るとともに、家庭と連携しながら日常的に体を動かす機会の充実を進めていく。
	(24)	80.4	(1) (2) (3)	76.4 92.1 96.6	早寝・早起き・朝ご飯	児童の評価は減少したものの、保護者の数値は高い。一方で、就寝時刻が22時を過ぎている児童も見られる。	児童自身に「早寝・早起き・朝ご飯」の効果を伝え続けていくとともに、学校だよりや保健だより等で保護者に呼びかけていく。
	(25)	76.1	(11)	56.2	スマートルール	児童は昨年度の68.3%から約6%上昇し、スマートルールを守る意識が高まっている。一方で、保護者の認識にはあまり変化は見られていない。	SNSに関する指導を長期休み前に計画的に行うとともに、保護者への啓蒙活動を継続する。さらに、専門家による出前授業を実施し、児童・家庭双方の理解と意識の定着を図っていく。
地域連携			(18)	79.8	交通ルール	昨年度より5%上昇し、日常の安全指導や具体的な場面での確認が成果につながったと考えられる。	引き続き、交通安全教室や自転車教室を開催し、交通ルールを意識した行動の定着を図る。長期休暇の前には生徒指導より交通ルールの大切さを伝える場を設ける。
			(21)	83.8	ICT機器の積極的利用	保護者の評価では昨年度より約7%下降しており、学校でのICT活用についての理解や効果の実感に差が生じている可能性がある。	学校でのICT活用の具体的な成果を保護者に共有し、活用意義の理解をさらに深める工夫を進める。